

日特建設株式会社



本店			
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5050 (大代表) FAX.03(5645)5051	
札幌支店			
〒004-0041	札幌市厚別区大谷地東4-2-20	TEL.011(801)3611(代) FAX.011(801)3633	旭川営業所 TEL.0166(48)3700 函館営業所 TEL.0138(35)7010 道東営業所 TEL.0155(24)5600
東北支店			
〒982-0036	仙台市太白区富沢南1-18-8	TEL.022(243)4439(代) FAX.022(243)4438	青森営業所 TEL.0177(73)7275 盛岡営業所 TEL.019(606)6120 三陸出張所 TEL.0193(27)8157 秋田営業所 TEL.018(863)3035 山形営業所 TEL.023(641)5988 福島営業所 TEL.024(536)1800
東京支店			
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5100(代) FAX.03(5645)5107	群馬営業所 TEL.027(253)2305 宇都宮営業所 TEL.028(637)3567 水戸営業所 TEL.029(246)2700 埼玉営業所 TEL.048(647)6981 千葉営業所 TEL.043(225)8023 横浜営業所 TEL.045(226)4820 長野営業所 TEL.026(228)6761
北陸支店			
〒950-0864	新潟市東区紫竹5-26-1	TEL.025(241)2234(代) FAX.025(241)2229	富山営業所 TEL.076(452)2766 金沢営業所 TEL.076(240)0111 福井営業所 TEL.0776(38)6499 佐渡営業所 TEL.0259(55)2332 上越営業所 TEL.025(544)4750
名古屋支店			
〒460-0008	名古屋市中区栄1-16-6	TEL.052(202)3211 (代) FAX.052(202)3212	岐阜営業所 TEL.058(275)0206 静岡営業所 TEL.054(202)2090 三重営業所 TEL.059(225)6575
大阪支店			
〒541-0048	大阪府中央区瓦町2-2-7	TEL.06(6232)2109 (代) FAX.06(6232)2108	京滋営業所 TEL.075(646)5890 神戸営業所 TEL.078(577)2570 奈良営業所 TEL.0747(22)5571 高松営業所 TEL.087(840)4151 松山営業所 TEL.089(946)0771 高知営業所 TEL.088(861)4171
広島支店			
〒730-0803	広島市中区広瀬北町3-11	TEL.082(231)2109(代) FAX.082(231)2310	鳥取営業所 TEL.0857(39)8050 松江営業所 TEL.0852(21)7317 岡山営業所 TEL.086(226)1429 山口営業所 TEL.083(925)4258
九州支店			
〒812-0027	福岡市博多区下川端町1-3	TEL.092(271)6461(代) FAX.092(271)6482	佐賀営業所 TEL.0952(37)6912 長崎営業所 TEL.0957(49)9320 熊本営業所 TEL.096(382)1639 大分営業所 TEL.097(552)4222 宮崎営業所 TEL.0985(23)1406 鹿児島営業所 TEL.099(227)0901 沖縄営業所 TEL.098(875)4400
直轄グラウト部			
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5111(代) FAX.03(5645)5112	
海外事業部			
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5055 FAX.03(5645)5056	
ジャカルタ 駐在員事務所 (インドネシア共和国)			
	GENERALI TOWER G, 16/F GRAND RUBINA BUSINESS PARK at Rasuna Epicentrum Jl. HR Rasuna Said, Jakarta 12940, Indonesia	TEL.+62-21(2994)1582 FAX.+62-21(2994)1991	

□ 問い合わせ先 □

日特建設株式会社 経営戦略本部 経営企画部 広報課

〒103-0004

東京都中央区東日本橋 3-10-6 Daiwa 東日本橋ビル 4 階・5 階・6 階

TEL 03-5645-5080 ／ FAX 03-5645-5083

ホームページ内「お問い合わせ」フォーム (<https://www.nittoc.co.jp/contact/index.html>) からの

お問い合わせが便利です。

ご意見、ご感想をお寄せください。当社の活動や報告書の改善に役立たせていただきます。

CSR報告書 NITTOC 2018



「守る」技術で、つながる、未来へ。



もくじ

■ 社長メッセージ	2
■ 会社概要	3
■ 経営目標・経営理念・経営方針	4
■ コーポレート・ガバナンス	5
■ コンプライアンス	6
■ 人材育成・就労制度	7
■ 新工法紹介	12
■ 安全衛生活動・安全教育	13
■ 現場紹介	15
■ 海外事業	17
■ 環境活動	21
■ 社会貢献	23

■ 編集にあたって

対象期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

対象範囲：当社とグループ会社の活動

発行時期：平成 30 年 6 月



社長メッセージ

日特建設は、1947 年（昭和 22 年）ダム基礎を創業工種として産声を上げ、環境防災、維持補修、都市再生分野などの専門工事に特化した地質に強い会社として評価をいただいております。

2017 年度を初年度とする中期経営計画 2017（2017 年度 -2019 年度）がスタートし、1 年が経過しました。

現在、建設業に対するニーズは、かつてないスピードで変化しており、その環境もまた変化しようとしています。例えば近年は、土曜日の現場事務所の閉所などを伴う働き方改革や協力会社社員の高齢化問題など様々な問題があります。日特建設は、その環境の中でも現在の水準を上回る利益をステークスホルダーに提供していくという使命を守り、「信頼される技術力と施工力」をさらに磨きをかけ、そのニーズに対応していきます。

当社の主な業務は、インフラの整備工事、防災工事、環境緑化工事など、国土の安全・安心にかかわる工事です。また会社の使命には、コンプライアンス、社会貢献、環境活動、顧客満足・投資家満足・従業員満足の向上など、多くの事柄があります。これら社会のさまざまな要請や期待に応えること、つまりそれはCSR（企業の社会的責任）の履行を前提としています。企業に求められる使命や対象者は、工事の品質や安全管理やそれを提供するお客様だけではなく、工事の周辺にお住まいの方々や施工したインフラを使用していただく方々など多岐に及びます。当社は、経営理念である「安全・安心な国土造りに貢献する会社」、「基礎工事における総合技術力と効率的な経営」、「信頼される技術力に培われた、環境・防災工事を主力とした基礎工事のエキスパート」を目指す建設業を営む会社として、社会的責任を果たしていく所存でございます。今後もしばしばご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要

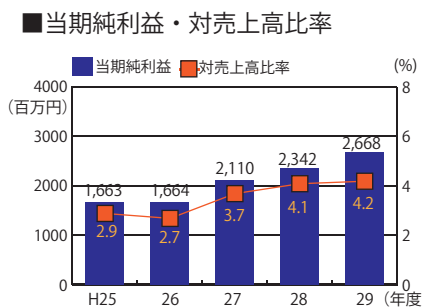
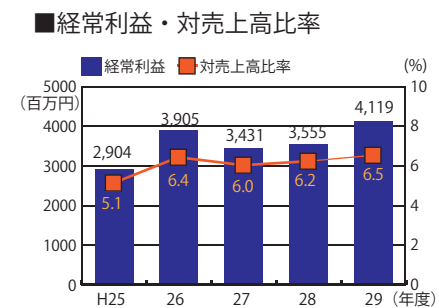
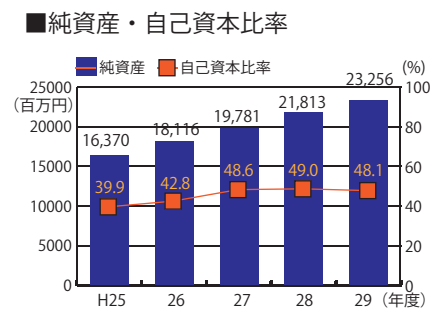
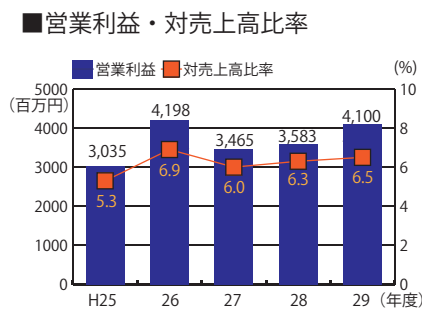
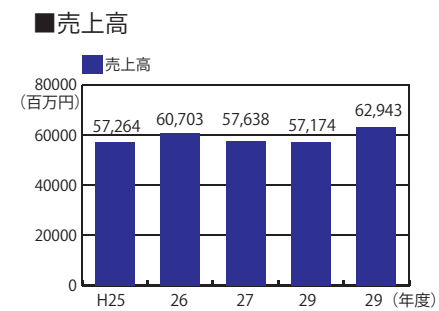
〇●〇

● 会社概要 平成30年3月31日現在

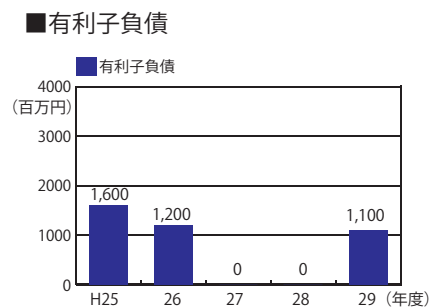
■商号	日特建設株式会社
	NITTOC CONSTRUCTION CO.,LTD
■本店	東京都中央区東日本橋 3-10-6
■設立	昭和 22 年 12 月 17 日
■資本	発行済株式総数 43,919 千株
	資本金 60 億円
	東京証券取引所 第一部上場
■代表者	代表取締役社長 永井 典久
■社員数	建設事業 1,130 名
(連結)	その他の事業 10 名
	計 1,140 名
※社員数は、有期労働契約に基づく常用労働者 273 人を含めて掲載しております。	
■業績(連結)	売上高 629 億円
	営業利益 41 億円
	経常利益 41 億円
	親会社株主に帰属する当期純利益 27 億円

■営業種目	総合建設業
	・土木・基礎
	・地質コンサルタント
■許可	建設業許可 特定建設業
	国土交通大臣(特-28)第211号
■登録	建設コンサルタント登録
	登録番号 建 26 第 15 号
	測量業者登録
	登録番号 第(14)-435号
	地質調査業者登録
	登録番号 質 29 第 2 号
■免許	宅地建物取引業
	東京都知事(2)第91766号
■指定	土壤汚染調査機関指定業者
	指定番号 環 2003-8-1002
■事業所	本店(東京)
	支店/札幌・東北・東京・北陸・名古屋
	・大阪・広島・九州
	・直轄グラウト部・海外部

● 業績(連結) 平成30年3月31日現在



※当期純利益は、平成27年度より、連結損益計算上「親会社の株主に帰属する当期純利益」と表示



経営目標・経営理念・経営方針

〇●〇

● 経営目標

2017年度からの3年間は、「我が国のインフラが新設から補修・更新に転換する新たな時代に向けた成長基盤を構築する期間」と位置づけ、下記の目標達成に向け全役職員一丸となり実行してまいります。2017年度の初年度は以下の通りに進めてまいりました。

中期経営計画(3ケ年)の位置付け
「Next Challenge」
我が国のインフラが新設から補修・更新に転換する新たな時代に向けた成長基盤を構築する期間

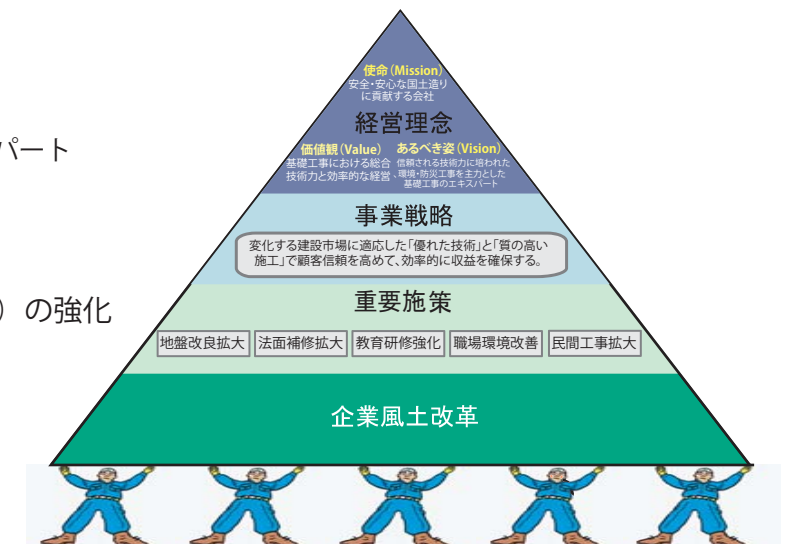
- 事業戦略
変化する建設市場に適応した「優れた技術」と「質の高い施工」で顧客の信頼を高め、効率的に収益を確保する。
 - 経営目標
 - 営業面の目標
 - 法面工事のトップを目指す(2016年度実績 業界2位)
 - 地盤改良工事 受注高の60%増加(2016年度比)
 - 法面補修工事の拡大
 - 海外工事の強化(2019年度までに完工高10億円を目指す。)
 - 業績面の目標
 - 営業利益 30億円以上
 - 経常利益率 5.0%以上
 - 財務面の目標
 - 自己資本比率 50%以上確保(2016年度実績 49.0%)
 - ROE 9.0%以上の確保
 - キャッシュ・フロー プラス以上の確保
 - 株主還元の目標
 - 配当性向 30%以上かつ総還元性向 50%以上
- ※ 総還元性向(配当及び自己株式取得)

経営理念

- 使命(Mission)
安全・安心な国土造りに貢献する会社
- 価値観(Value)
基礎工事における総合技術力と効率的な経営
- あるべき姿(Vision)
信頼される技術力に培われた、
環境・防災工事を主力とした基礎工事のエキスパート

経営方針

- 内部統制(コンプライアンス、リスク管理)の強化
- 安全と職場環境を重視した経営
- 基礎工事の量の確保
- 収益性の維持
- キャッシュ・フロー重視の経営

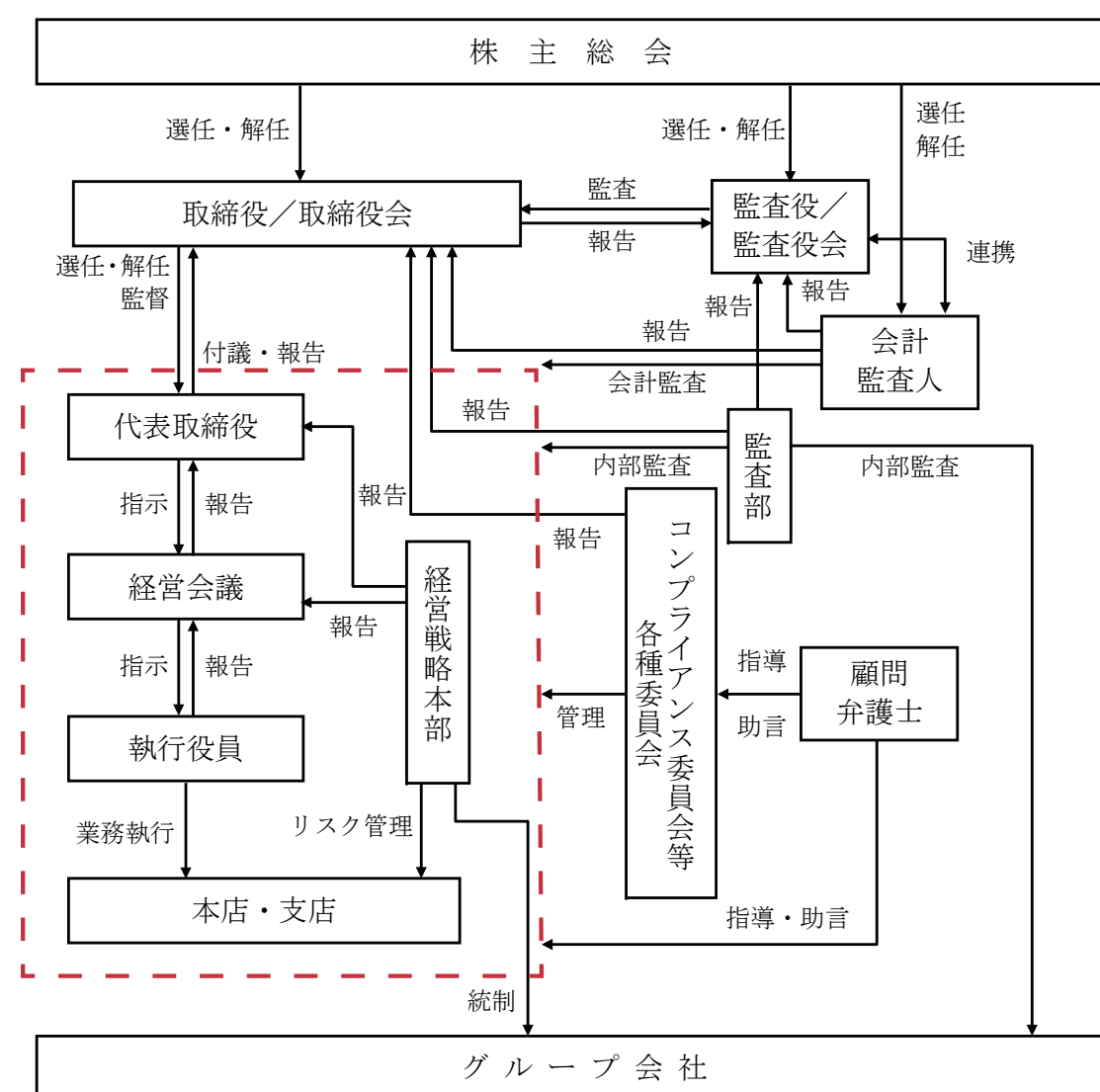


コーポレート・ガバナンス

〇●〇

● コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業活動を支えるすべてのステークホルダーの利益を重視し、かつ各種法規範のみならず、社内規範や社会の良識・常識をも遵守した企業倫理の重要性を認識するとともに、企業の継続的な発展と、社会的信用の獲得、また、反社会的集団に対する不当利益供与の根絶等、経営の透明性、健全性を高め、社会基盤の整備に貢献できる組織の構築をコーポレート・ガバナンスに関する基本的な方針としております。



コンプライアンス

〇●〇

日特建設では、コンプライアンスは重要な社会的責任であり企業存続の基盤であると考え、「行動規範 - コンプライアンス基本方針」に則り、法令や社内外のルールの遵守を徹底してまいります。そのためにコンプライアンス重視の業務体制の構築はもちろん、社員に対するコンプライアンス研修にも力を入れております。

● 行動規範 - コンプライアンス基本方針

私たちは、事業を営む者として企業の社会的責任を自覚し、法令や社内外のルールおよびその精神を遵守するとともに社会的良識をもって、以下の通り行動します。

- 1 私たちは、社是である「日々是進歩」、および社訓である「安全第一、信用確立、技術発展」を常に踏まえた企業活動を行い、経済や社会の発展に貢献します。
- 2 私たちは、法令や社内ルールを遵守するだけでなく、企業倫理に基づいた企業人として誇れる行動を通じて、社会からの信頼に応えるように努めます。
- 3 私たちは、「開かれた企業」として適時・適切に企業情報の提供を行なうとともにステークホルダーをはじめとする社会からの声に耳を傾け企業活動に反映させるように努めます。
- 4 私たちは、環境問題への取組は企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。
- 5 私たちは、地域で働く企業人として地域との融和に努め、地域活動にも自主的に参加し、地域社会に貢献できるように努めます。
- 6 私たちは、お客様の要望に誠実に応えるとともに、お客様の目線でものを考え、お客様本位の対応を行ないます。
- 7 私たちは、取引先と透明性の高い公正で健全な関係を築き上げ、相互の繁栄を考えた取引を行なうように努めます。
- 8 私たちは、誠実かつ健全な企業活動を継続することで、社会から信頼される企業となるよう努めます。
- 9 私たちは、従業員の人權を尊重し、個性を認め合い、十分なコミュニケーションを心掛けることで、安全で快適な職場を築きます。
- 10 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体には厳しく対処します。

● コンプライアンスの徹底、教育

1. コンプライアンスの徹底

行動規範を定め、各種会議で随時一人ひとりが確認し、コンプライアンス意識の向上を図っています。

2. コンプライアンス教育

(1) 研修会

当社では年間を通じて様々な会議で、コンプライアンス研修を行っております。

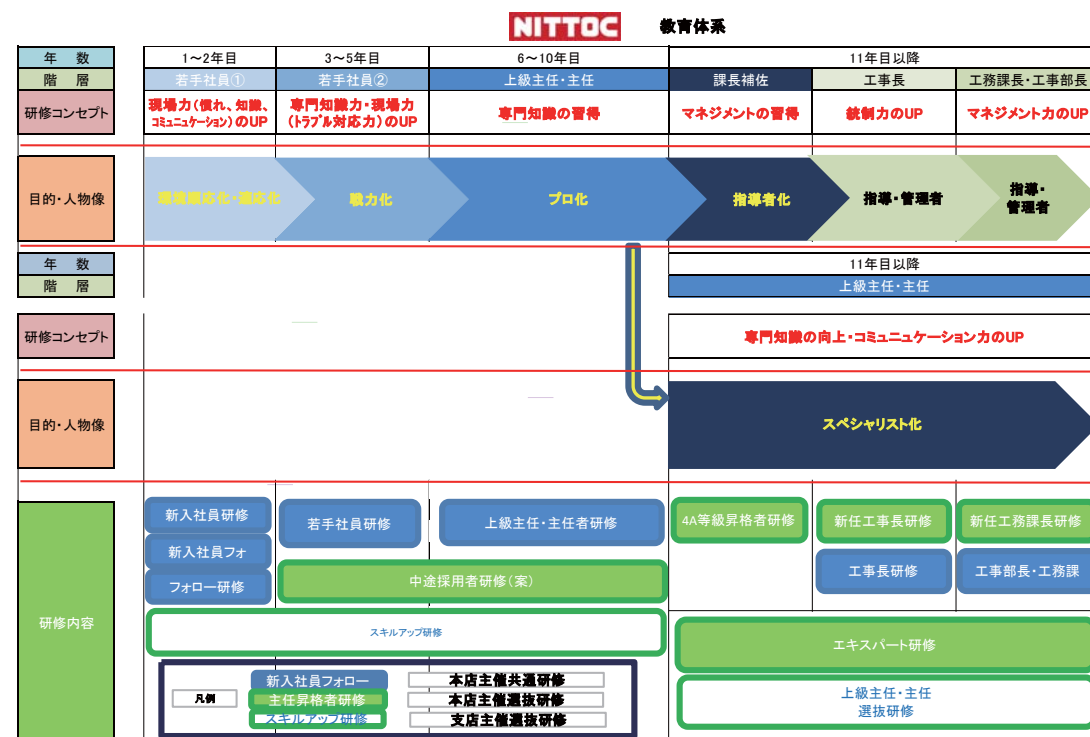
例：工事部長・工務課長研修、事務管理部課長研修、
コンプライアンス・リスク管理推進責任者研修

(2) 社内報、e-ラーニングを通じた教育

毎月、社内報に様々な具体例を紹介したコンプライアンス講座を掲載しています。またe-ラーニングを用いて、定期的に教育を行い、社員一人ひとりのコンプライアンス意識や理解の向上を図っています。

● 教育制度 社員の可能性を引き出すため、階層ごとに教育制度を設けています。

私たちはこのコンセプトのもと、未来の夢のため、将来を見据えた教育制度を整えています。さらに社員一人ひとりの気持ちを大切に、個性を伸ばしていくことで、優れた専門性とさまざまなものに興味を持つ、多様性を併せ持った人物への成長を促していきます。



● 主な研修の様子

主な研修の様子をご紹介します。



新入社員研修



フォロー研修(2年目)



工事部長・工務課長研修



営業所長研修

● 就労制度 ライフイベントに合わせ、様々な就労制度を設けています。

各種の就労制度を取り入れ、社員に働きやすい職場を目指しています。

例: 育児・介護休暇、休業、短時間勤務、自己啓発研修(LGAT)・ボランティア活動休暇等

育児休暇等取得社員の声



産休、育休を半年間取得しました。1年から2年取得する社員が大半を占めるなか、早期復職の私は心配事も多くありましたが、復職後、会社の制度(特休、半休、短時間勤務、業務分担への配慮など)をフル活用し、上司、同僚の支えも頂き、小さい子供を抱えながらも育児と仕事の両立ができています。また、世間では「小1の壁」の話題が取り沙汰されていますが、今年度から子供が小学三年生まで時短勤務が利用できることになり、将来も不安なく仕事が続けられそうです。

管理本部 高橋智子

● 社内表彰制度 一人ひとりが輝く会社

社内の活性化と社員のモチベーション向上を目指し、様々な表彰制度を設けています。

社長賞受賞社員の声 (社長賞-熊本営業所が受賞)



平成28年度は始まって早々大きな地震に見舞われ大変な年になりました。震災復旧工事が増大し、おそらく営業所始まって以来の受注額となったのではないかと思います。そのような状況で大きな事故や災害もなく年度を終えられたのは、本社・支店のご支援をいただき所員全員が一丸となって頑張ったからだと思います。熊本の復興はまだ道半ばではありますが、今回いただいた賞を励みにこれからも復興に向けて全力で取り組んでまいります。営業所を代表しまして感謝申し上げます。

熊本営業所 所長 坂本 真志

● 資格取得支援 社員の資格取得のために、資格手当の支給など様々な支援をしています。

事業を行っていく上で必要な資格について、各種の支援を行っています。特に、現場代理人を務めるために必要な1級土木施工管理技士については、研修や論文添削なども行っています。また、技術士については、日特建設技術士会が支援の中心となり支援を行っています。また、資格取得者には資格手当を支給し、社員の資格獲得へのモチベーションを高める働きをしています。

	手当を支給する資格(取得一時金を含む)
技術系	博士(工学、理学)、技術士、1級土木施工管理技士・2級土木施工管理技士(土木、薬液注入)、1級・2級建築士、1級・2級建築施工管理技士、1級・2級造園施工管理技士、1級・2級管工事施工管理技士、1級・2級建設機械施工技士、1級・2級電気工事施工管理技士、第1・第2・第3種電気主任技術者、第1種・第2種電気工事士、甲種・乙種火薬取扱保安責任者、測量士、測量士補、地質調査技士、基礎施工士、地すべり防止工事士、第1・第2種下水道技術検定合格者、推進工事技士、コンクリート診断士、VEリーダー、技能士(1級・2級さく井)、自動車整備士(1級・2級・3級)、甲種・乙種危険物取扱者、労働安全・衛生コンサルタント、公害防止管理者、公害防止主任管理者、グランドアンカー施工士、建築積算士、工事管理者(新幹線・在来線)、ジェットグラウト技士、のり面施工管理技術者、土壌汚染調査技術管理者、水産工学士(水産土木部門)、1級舗装施工管理技術者、シビルコンサルティングマネージャー(RCCM)、ダム工事総括管理技術者、
事務系	公認会計士、公認会計士補、税理士、弁理士、司法書士、不動産鑑定士、不動産鑑定士補、宅地建物取引士、土地家屋調査士、1級・2級建設業経理士、システム監査技術者、ITストラテジスト(システムアナリスト)、システムアーキテクト(アプリケーションエンジニア)、プロジェクトマネージャ、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、情報セキュリティスペシャリスト、ITサービスマネージャ、社会保険労務士、衛生管理者、応用情報技術者(第1種情報処理技術者・ソフトウェア開発技術者)、3級建設業経理事務士、基本情報技術者(第2種情報処理技術者)、ITパスポート(初級システムアドミニストレータ)、1級簿記検定

● 働きやすい職場環境 働きやすい職場環境の整備を進めています。

日特建設では、社員の働きやすい職場作りを行っています。その中で、残業時間の抑制・労働時間の短縮や、有給休暇の取得促進、現場の土曜日休日の取得、男女共に働きやすい職場の構築を進めています。

■中期経営計画 重要施策 教育研修チーム、職場環境改善チーム

中期経営計画では、重要施策を5つ設定して取り組んでいます。そのなかで教育研修強化と職場環境改善を設け、会社全体で組織横断的にチームを作り、社員の教育体制強化と職場環境の改善に全社で取り組んでいます。

1. 教育研修チーム

- 目的：専門工事会社としての技術者を計画的に育成する。
- 目標：(1) 経験や知見に基づいた技術の継承。
(2) 施工技術を身につけた専門工事の技術者を育てる。
(3) 客先からの指名の取れる技術者を育成する。

取組事項：

- (1) 各研修の実施
スキルアップ研修、上級主任・主任者研修
- (2) スキルマップの作成
- (3) 研修の成果(確認)について
- (4) 教育体系に合わせたOJTの策定

2. 職場環境改善チーム

- 目的：職員の心身の健全化、過重労働防止を図るための職場改善を行う。

- 取組事項：(1) 現業社員の4週6休・平日残業時間の平均2時間以内の推進
(2) 四半期ごとの時間外労働時間の目標管理
(3) 入社3年目までの配置ルールの見直し
(4) 給与水準の引き上げ
(5) 安全パトロール時の点検 他



重要施策チーム会議

● 次世代の育成-「夏のリコチャレ2017」新たに建設業界を担う人材の育成にも協力しています。

日特建設は、8月10日(木)、日本経済団体連合会、内閣府、文部科学省が主催し、株式会社建設通信新聞、日本大学理工学部が共催する「夏のリコチャレ2017」に出展しました。

このイベントは、これから理工系を目指し、建設業界の新たな担い手となる人材を建設業界に呼び込む目的で開催され、内閣府、東京都をはじめ各建設会社など35社・団体が出展しました。当日は参加された中学生、高校生の生徒やその親御様に対して、各団体が建設、土木の仕事の内容を分かりやすく、楽しんで理解してもらえるように説明いたしました。



夏のリコチャレ2017 当社の出展ブースの様子

● 研修施設の建設

1. 蓮田総合センターの新設

日特建設では、技術開発とともに、研修・人材育成の拠点となる施設 蓮田総合センターを建設し、この施設を活用し、社員の教育、育成を進めていきます。平成30年9月完成予定です。

蓮田総合センターは、中期経営計画2017(2017年度～2019年度)のテーマである技術開発と人材育成の拠点となる施設として建設いたします。建物は現在、自社が保有する蓮田寮を改築し、新たに研究開発室や来客用ギャラリー、研修生などが入居する寮を備えるとともに、本社のバックアップオフィスの機能も有する施設とします。この施設を活用し、集中的で効率的な技術開発と人材育成の新たな強化を進めてまいります。



蓮田総合センター完成予想図(正面玄関より)

2. 施設の概要

- (1) 名称：日特建設株式会社 蓮田総合センター
- (2) 所在地：埼玉県蓮田市
- (3) 有効敷地面積：約3,000㎡
- (4) 総投資額：約16億円(土地を含む)

3. 設備機能

- (1) 研究開発棟
- (2) 階層別研修室
- (3) 施工指導課の所属員寮
- (4) 研修対象者の宿泊施設
- (5) 震災時の本店・東京支店のバックアップオフィス



蓮田総合センター 1階平面図及び配置図



蓮田総合センター建設中の様子

●コミュニケーション活動 社員同士のオフタイム活動を支援しています。

当社の社員会では、社員同士の様々なコミュニケーション活動(通称「コミ活」)に対して、活動費補助を行っています。仕事上の関係だけではなく、豊かな人間関係づくりを推進しています。



■全国ボウリング大会開催

当社では、社員のコミュニケーション活動の一環として、7月から11月に本店、支店、営業所等で行われるボウリング大会を支援しています。またボウリング大会終了後は、各地で懇親会を開催し、食事をしながらボウリングの結果を楽しく語りました。各地の成績上位者が東京に集まり、全国ボウリング大会も2月に開催しました。またボウリング参加者には、抽選で賞品も授与されています。

当社では、このようなレクリエーション活動を今後も支援していきます。



■フットサル大会開催

東北支店では、定期的に社員の有志が集まり、「フットサル愛好会FCNITTOC」と名付けたフットサル大会を開催しています。

日頃は、それぞれの現場で日々頑張っている社員たちです。休日に若手からベテラン社員まで皆で集まり、上下関係も忘れて楽しんでます。無我夢中でボールを追いかけて、汗をかき、日ごろの忙しい業務を忘れて、気分をリフレッシュしています。

このような有志による活動に、会社も資金提供をして、社員間のコミュニケーション活動を支援しています。



■ゴルフ大会 各地で開催

全国のゴルフ愛好家の有志たちは、ゴルフ大会を開催しています。4月には北陸支店で23名、大阪支店で20名、広島支店で11名、5月には札幌支店で14名、技術本部で8名、本店で23名、名古屋支店では、5月に15名、8月には12名の参加によりゴルフ大会が開催されました。

下期には10月に北陸支店で4名、11月には本店16名、東京支店9名、12月には北陸支店で4名、1月には本店管理本部で4名、また3月には本店技術本部で8名の参加によりゴルフ大会が開催されています。

このように、各支店・本店各本部で活発にゴルフ大会が開催されています。



■全国でマラソン大会に参加

毎年、各支店の有志が、各地域のマラソン大会や駅伝大会などに参加しています。

4月に名古屋支店で10名、5月には東北支店で15名、1月に名古屋支店で17名が参加するなど、日本全国の大会に積極的に参加しています。また海外では、5月にインドネシア共和国で開催された、ASEAN地域最大規模の市民駅伝大会とされる『ジャカルタ「絆」駅伝』に、現地駐在員事務所等の社員12名が、参加しています。

●日特建設の新たに開発した工法 当社では時代のニーズに合わせた新技術・工法の開発を随時行っています。

斜面・法面对策などの環境防災技術、既設構造物の維持補修技術、地盤改良・薬液注入といった都市再生技術など、数多くの経験と実績により裏打ちされた技術とノウハウで、安心・安全な国土造りに貢献できるよう今後も取り組んでまいります。

老朽化した吹付のり面の補修・補強工法

「吹付受圧板工法」(FSC パネル)

老朽化した吹付のり面の吹付材をはつり取ることなく、繊維補強モルタル吹付により吹付材表面の被覆を図り、吹付受圧板と地山補強土工を組み合わせて、のり面を補強する工法です。繊維補強モルタル吹付と補強部材を組み合わせる受圧板が「FSCパネル」です。

特長

- 受圧板を吹付で構築するため、不陸調整が不要
- 補強鉄筋の配置間隔を、最大2mまで広げることが可能
- 道路施設等、鉄道施設以外にも多数存在する、老朽化した吹付のり面の補修・補強に適用可能

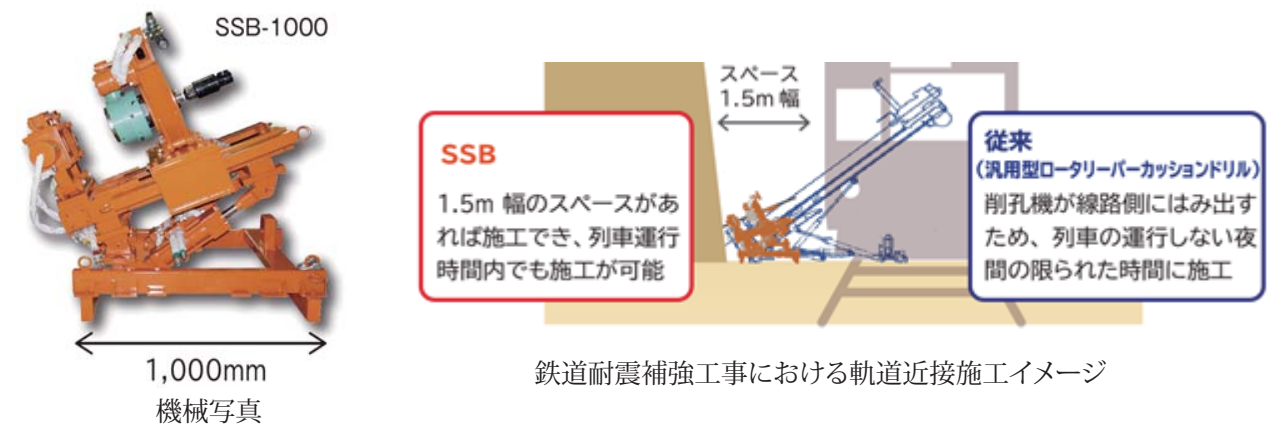


モデル図と施工完了後写真

国内最小級の超小型二重管削孔機

SSB(エスエスビー)

鉄道(道路)耐震補強工事等では狭隘なスペースでの施工が求められますが、本機はこのようなニーズを満たす、超小型二重管削孔機です。



鉄道耐震補強工事における軌道近接施工イメージ

特長

- 1.5mの施工幅があれば、施工可能
- 他の軽量型削孔機では不可能であった、φ216mm(最大)の削孔も可能
- 分割すると最大130kgとなり、人力での搬出入も可能

以上の特長から、

- ・宅地裏など狭隘なスペースで、一般的な削孔機が入らない場所
- ・山岳地域等、揚重設備が使えない場所における耐震補強工事で力を発揮します。

●安全・衛生への配慮 安全に安心して働ける職場環境の整備を進めています。

日特建設は、社員、協力業者の社員を含めた工事に関わる全ての人が、安心して働ける職場環境を整備することも企業の重要な責務であると認識し、安全・衛生環境の整備と教育に力を入れています。

■安全衛生管理活動基本計画

1. 安全衛生管理活動基本計画の策定・重点実施項目

日特建設では、本店の安全環境品質本部で安全に関する基本計画を立て、その計画に則り、各支店の安全環境品質部が、現場代理人に安全活動の指導を行います。また、その計画の中で、安全指導の基本方針を3つ設けており、そして比較的事故の多いものを重点実施項目として5つ選び、それに関する事故の発生を特に力を入れて管理しています。

+ 平成30年度 安全衛生管理活動基本計画	
安 全 第 一	
全社統一スローガン	規則、規程、ルールを守り 危険ゼロの職場を確立する
基 本 方 針	人命尊重を基本理念とし、設備と教育の充実を図り安全を確保する
目 標	死亡、重大災害ゼロ 法面からの墜落・転落災害ゼロ
重点災害 防止項目	●墜落・転落災害 ●建設機械・クレーン等の災害
安全指導の 基本方針	(1)『計画及び設備』 安全優先の計画を作成し、基本及び原則重視の設備を設置する (2)『教育』 類似工事の過去災害事例を自身の現場に置換えて学習する (3)『点検と是正』 現状と今後の作業を見据えた点検を行い、原則その場で改善する
重点実施項目(ゆとりを持った作業環境の整備)	
(1)安全指導強化5項目の推進	①クレーン計画書の周知と徹底【平成30年度 最重要強化項目】 ②の法面、高所での安全帯の使用と先行した設備の設置 ③ボリングマシン作業手順の周知と徹底 ④圧力作業間そく時の作業手順の遵守 ⑤ハンドリングマシンの安全教育と指導
(2)社員・作業員教育の強化	①当事者意識を持たせる災害事例教育 ②コミュニケーション力向上教育
(3)パトロールによる改善指導の強化	①不安全行動の改善 ②次工程を見据えた「計画及び設備」の確認 ③協力業者事業主パトロールの実施徹底 ④保護具(ゴーグル型メガネ等)使用ルールの徹底
(4)指差呼称による「確認と一呼吸」	親御ヨシ！ 安全帯ヨシ！ 玉掛ヨシ！ 停止ヨシ！ メガネヨシ！
(5)長時間労働防止対策の強化	①適正な就労管理の時間外、休日労働削減への取組強化
日 特 建 設 日 特 建 設 日 進 会	

■安全教育の実施

当社では、社員や協力業者社員が業務において事故を起こしたり、けがをしないように、安全活動に必要な様々な教育を実施しています。また、法面の土質によって様々に変わる状況に応じた安全教育を行っております。

1. 新入社員安全教育

当社では毎年4月、入社時に安全教育を行っています。法面実習などを実際に体験して安全設備の使い方を学び、作業員への管理・指導に役立てるよう学んでもらっています。

2. 特別教育研修

当社では随時、地山点検管理者トレーナー研修を行っています。これは、地山崩壊の兆候を発見し、災害を未然に防ぐ地山点検管理者を養成するための研修です。



新入社員研修(法面実習)



地山点検管理者トレーナー研修

■安全パトロールと協力会社への教育

1. 安全パトロールの実施

日特建設では、本店の安全環境品質本部 主導のもと、各支店の安全環境品質部が各現場の安全パトロールを行っています。土木工事の現場ごとに作業環境、状況はそれぞれ異なります。その現場の安全管理の状況を、現場代理人だけでなく、本店や幹部の視点からもチェックすることで、事故を発生させない安全な現場・職場環境を目指します。

2. 協力会社(事業主)への教育

事業主(協力会社の社長や幹部)に対して、過去の災害事例に基づく災害防止教育の実施や法改正時の改正ポイントの解説、事業主パトロールの実施率の調査報告などを含めた講習を随時行っています。



安全パトロールの様子



協力会社(事業主)教育の様子

■日進会と安全衛生推進大会

1. 日進会(協力会社)と共に安全活動を推進

日進会は、会社並びにその子会社と会員(協力会社)が相互に提携し、労働災害、第三者公衆災害、交通災害の発生防止活動に取り組み、また、会員相互の意見交換、互助親睦を図り、更に技能の向上に努め共に発展し、会員の経済的地位の確立を期すことを目的にする会です。日進会と当社は共に協力し合いながら、安全活動を進めています。

2. 日特建設日進会 安全衛生推進大会

毎年6月に、当社の安全環境部の社員と全国の協力会社の代表者を集めた安全推進大会を開催しています。その会では、他の模範となる優秀な安全成績を収めた協力会社を表彰することにより、安全推進活動を進めています。



安全衛生推進大会



協力会社表彰

現場紹介

〇●〇

当社は、「環境防災」「維持補修」「都市再生」の分野で、社会ニーズに応える新技術を生み出し、安心・安全で豊かな社会づくりに貢献しています。そして、私たちにできる仕事をしっかりと着実にすることも、震災復興及び防災・減災への貢献になると考えています。

● 東日本大震災 復旧・復興への取組み

■ 請戸川特別災害復旧事業 大柿ダム災害復旧(その4) 工事 (福島県 双葉郡)

東日本大震災発生時の激しい揺れにより、大柿ダム堤体天端などに亀裂が生じ、ダムの管理面や運用面に大きな支障を来しました。当社は、その崩壊した法面の復旧工事を担当しました。工事では、補強鉄筋付き繊維補強モルタル吹付工を実施し、ダムを復旧いたしました。

[発注者：農林水産省 東北農政局 概要：強鉄筋付き繊維補強モルタル吹付工]



施工前



完成後

● 災害復旧工事

■ 一般国道274号清水町清流改良工事 (北海道沙流郡日高町～上川郡清水町)

平成28年8月の台風10号の影響により、国道274号日勝峠の一部が崩壊し、通行止めとなる大きな被害を被りました。当社は、その道路の復旧を行い、開通させるための工事を担当しました。工事は、崩落した法面の保護工として、法枠工、地山補強土工を行いました。

[発注者：国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部 概要：法枠工、地山補強土工]



施工前



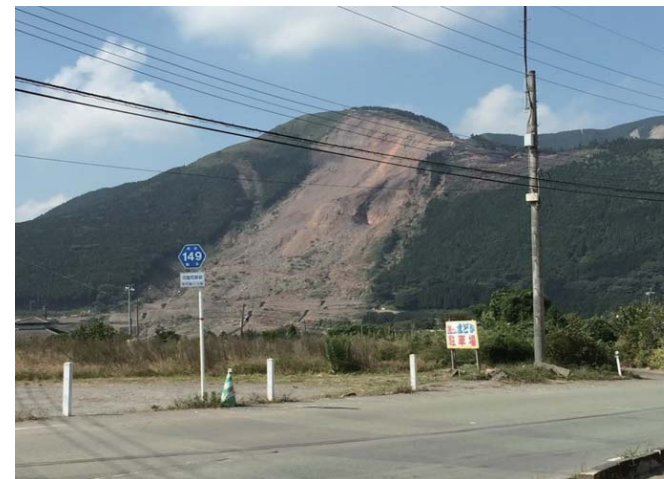
完成後

● 熊本地震 復旧・復興への取組み

■ 阿蘇大橋地区斜面对策工事 (熊本県阿蘇郡)

平成28年4月16日に発生した熊本地震により、阿蘇大橋地区で大規模斜面崩壊が発生しました。当社はこの復旧工事を担当しました。具体的には、斜面を整形し、浸食防止のため植生工を施し、落石等を防止するための密着型安定ネット工と高強度ネット工を施工する斜面恒久対策工事を行いました。

[発注者：国土交通省 九州地方整備局 熊本復興事務所 概要：植生工、密着型安定ネット工、高強度ネット工]



施工前



施工中

■ 平成28年度災害復旧 戸下地区外斜面对策工事 (熊本県阿蘇郡)

熊本地震により、阿蘇長陽大橋の架かる村道桁の木～立野線や阿蘇大橋の架かる国道325号は通行止めとなりました。この工事は国道325号の代替路として村道を早期に開通させる復旧・整備です。当社は高強度ネット工、ロックボルト工、軽量コンクリート工、空洞充填工、吹付法枠工の施工を行いました。

[発注者：国土交通省 九州地方整備局 熊本復興事務所 概要：高強度ネット工、ロックボルト工、吹付法枠工 他]



施工中



施工中

● 海外展開について

インドネシア共和国は人口2.5億人を抱え、高い経済成長を続けています。しかし、交通渋滞が常態化するなど、インフラについてはいまだ未整備の状態です。

そこで当社では成長戦略の一環として、高い成長を続けるインドネシアのインフラ工事の受注を目指していきます。またインドネシアだけにとどまらず、成長する東南アジア地域のインフラ工事の受注も目指します。

■ インドネシアに子会社を設立

当社は、2012年9月にジャカルタ駐在員事務所を設け、現地法人設立の調査などを続けていました。そしてPT PANCA DUTA PRAKARSAとの間で、インドネシア共和国国内における建設事業を行う合併会社を設立することを決議し、2015年10月に、日特建設会社及びPT PANCA DUTA PRAKARSAとの合併契約を締結しました。そしてPT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAを設立し、2016年4月より営業を開始しています。

当社は、設立した連結子会社PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAにおいて、インドネシア共和国国内のインフラに関するのり面、地盤改良などの専門工事の受注に向けた受注活動を行ってまいります。

合併会社の概要

- (1) 商号: PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA
- (2) 代表者: 屋宮 康信
- (3) 所在地: インドネシア共和国 南ジャカルタ市
- (4) 営業開始年月: 2016年4月
- (5) 事業の内容: インドネシア共和国国内における建設事業
- (6) 決算期: 3月期
- (7) 資本金: 51,000百万インドネシアルピア (約413百万円)
※インドネシアルピア=0.0081円で計算しております。
- (8) 株主構成: 日特建設(株): 65%、PT PANCA DUTA PRAKARSA: 35%

住所:
GENERALI TOWER G, 16/F
GRAND RUBINA BUSINESS PARK
at Rasuna Epicentrum
Jl. HR Rasuna Said, Jakarta 12940, Indonesia
Tel. (021) 2994 1582 ; (021) 2994 1583
Fax. (021) 2994 1991

PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA ホームページ
<http://www.nittoc-id.co.id/>



新しいオフィスが入居しているビル
GENERALI TOWER

日特建設(株)ジャカルタ駐在員事務所スタッフと
PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAのスタッフ



社員の慰労と親睦を深めるためのレクリエーション活動。社員全員
が一同に会しました。2017年11月 ボゴールのサンタモニカにて

● PR活動について

当社はインドネシアに進出してまだ日が浅く、様々な機会を通じて当社を知っていただく必要があります。学会へのブース出展やインドネシア国内ゼネコン等への技術紹介プレゼンテーションなどPR活動を積極的に行っています。

■ インドネシア地盤工学会への出展

2017年11月に行われたインドネシア地盤工学会に技術展示ブースを出展しました。当社の工法はインドネシアでは珍しく、たくさんの方にご来場いただきました。

■ インドネシア国内ゼネコン等への技術紹介

当社の概要や技術を知っていただくべくプレゼンテーションの機会を積極的に設けています。こうした活動が実を結び受注につながる案件が増えています。



地盤工学会に出展したブース



来場者にパワーブレンダー工法を説明する様子



Wijaya Karya (大手ゼネコン) プレゼンの様子

● コミュニケーション活動について

レクリエーション活動を活発におこない、コミュニケーションを図っています。2017年11月にはインドネシアの全社員が参加し、1泊2日でジャカルタから60 km離れた避暑地に旅行へ行きました。創作ゲームやサッカーなどを行い楽しい時間を過ごしました。



海外工事紹介

インドネシア共和国では、駐在員事務所開設から、子会社設立を経て、着実に施工実績を積み重ねています。インドネシアで手掛けた工事をご紹介します。



■ ジャカルタ都市高速鉄道建設工事
Jakarta Mass Rapid Transit Construction Project

この工事は、インドネシア初となるジャカルタ市内高速鉄道の工事です。当社はシールドの発進、到達立坑止水などの地盤改良工事を担当しました。

事業主：PT Mass Rapid Transit Jakarta
注文者：SMCC-HK JO、SOWJ JO
工事内容：地盤改良工事
工事期間：2017年6月～2018年2月

■ ラジャマンダラ水力発電所工事
Rajamandala Hydroelectric Power Plant Construction

この工事は、インドネシア西ジャワ州ラジャマンダラにあるチタムル川を利用した水力発電所の工事です。当社は導水路・放水路・余水吐の土留アンカーをHyundai Engineeringから受注し、担当しました。

事業主：PT Rajamandala Electric Power
(Indonesia Power、関西電力(株)が設立した現地法人)
注文者：Hyundai Engineering
工事内容：仮設グラウンドアンカー工
工事期間：2017年7月～2018年1月



■ ルムットバライ地熱発電所工事
Lumut Balai Geothermal Power Plant Construction

この工事は、スマトラ島にあるルムットバライの地熱の蒸気を利用した発電所の工事です。当社は法面保護工事を提案し、施工を担当しました。
事業主：PT Pertamina Geothermal Energy
注文者：PT Multi Adverindo
工事内容：スリット・周辺部法面对策工
工事期間：2017年8月～12月



■ AYANA コモドリゾート工事
AYANA Komodo Resort, Waecicu Beach

この工事は、フローレス島西部にあるラブアンバジョに建設するリゾートホテル開発工事です。当社はホテル背面の斜面对策工事を提案し、施工担当しました。

事業主：PT Prima Pratama Citra
工事内容：法枠、永久アンカー、ロックボルト工
工事期間：2017年9月～2018年4月



グローバル社員の紹介

海外研修や語学研修、海外工事現場への出向、インドネシア人等の外国人技術者の教育を通じ、国際社会への対応を図っています。当社に勤務するグローバル社員のご紹介です。



私は2016年6月にPT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAに入社しました。入社直後の第一印象は「とても素晴らしい会社に入社できた」でした。他のスタッフもとても気さくで新人に対して親切に接してくれます。人の良さが当社の魅力です。

私は経理部に所属しており、財務、経理、税務のサポートを担当しています。日々の業務はとても新鮮でたくさんのことを学んでいます。

2018年7月に日本へ研修に行く予定です。このような機会を下さった会社に感謝します。この研修で学んだことや日々の業務で培った経験を活かして、将来は当社をインドネシアでより大きな会社にする一助になりたいです。

トリ・ヒダヤウトゥライリー (Tri Hidayatullah)
所属：PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA 国籍：インドネシア



私は2014年11月に日特建設に入社しました。私は、2001年に大学卒業後から当社に入社するまで13年間建設業に従事してきました。最初に関わった当社のプロジェクトはランチャマヤにあった法面とグラウンドアンカーの施工です。

現在の私の仕事は工事予算の作成、資機材の手配、人員配置そして工事報告書の作成です。日々の業務は大変ですが当社で働くことはとても楽しいです。当社のような専門技術を持つ会社はインドネシアにはなく、私にとって新しい技術を学ぶことが本当に面白いです。

当社の技術を用いてインドネシアの発展に貢献することが私の使命だと考えています。そのために多くのことを学び、工事管理のスペシャリストになっていきたいです。

ファルク・チャンドラ (Faruq Candra)
所属：ジャカルタ駐在員事務所 国籍：インドネシア



私は2011年11月に日特建設に入社しました。私は、大学卒業後日系の会社で推進工事の施工に従事していました。当社に入社後は日本に約3年間研修を受け、日本語の勉強、施工管理、機械の扱い方など様々なことを学びました。

2014年に当社のインドネシア事業が本格化すると同時にインドネシアに戻り、以来インドネシア国内の様々な現場で施工を担当してきました。現在の私の仕事は主に現場の施工管理、工程表の作成、資機材の手配、顧客との交渉、工事進捗の報告などを行っています。一つの現場を運営していくことは大変ながらも、とてもやりがいを感じています。

当社の技術は種類が多岐に渡りどれもがとても勉強になります。将来は、インドネシアにおける地盤改良の第一人者になっていきたいです。

アフダ・リアンシャ・エリス (Afda Riansyah Eris)
所属：ジャカルタ駐在員事務所 国籍：インドネシア

● 環境方針

日特建設は、環境・防災・都市再生・維持管理関連の専門技術を得意とする総合管理力のある会社として、広く社会に貢献することを経営理念のひとつに掲げています。

技術本部は、この経営理念に基づき、下記の事項を環境方針として定めています。

1. 技術本部は、地球環境の保全活動を事業活動の一つとして位置付け、地球環境への負荷低減を目指し、環境マネジメントシステムの改善を図るとともに継続的向上に努める。
2. 限りある資源の有効利用と環境への負荷低減に向けた資源循環社会と、人を含む地球上の生物の環境共生型社会の構築に向けた研究・開発及び設計・検討を進める。
3. 廃棄物量低減、リサイクル率向上、省資源、省エネルギー、生態系保全、景観保全、環境保全型商品利用の促進、気候変動への適応などを旨とした活動を推進する。
4. 環境関連の法規制、協定書、顧客及び業界の要求事項を遵守し、環境保全に関する社会的責務を積極的に果たす。
5. 技術本部の要員への環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努める。
6. 顧客及び地域社会との協調を図るため、必要に応じ環境方針及び環境保全活動の実施状況を公開する。

●ISO14001を活用した環境マネジメントシステム

当社は、1999年2月に各環境関連部署の環境管理推進委員会から構成される「環境委員会事務局」を、1999年10月に環境管理責任者を委員長とする審議機関「環境委員会」を設置し、同年11月に「日建建設株式会社技術本部環境方針」を発表しました。その後、環境マネジメントシステムの構築を図り、2000年3月、技術本部としてISO14001環境マネジメントシステムを審査登録し、現在下記の環境目的を掲げています。

1. コピー用紙の使用量を減らし、環境への負荷を低減する。
2. 一般廃棄物のリサイクル率を高めて、環境への負荷を低減する。
3. 研究・開発業務実施要領で示された適用範囲のうち、技術本部の環境目的に示した著しい環境側面（16環境側面）を有する研究開発テーマを実施する。
4. 設計・検討業務実施要領で示された適用範囲の設計・検討業務について、
 - ①省エネ
 - ②省資源
 - ③大気質保全
 - ④水質保全
 - ⑤自然環境保全
 - ⑥地盤環境の保全
 - ⑦掘削量の削減
 - ⑧廃棄物の削減
 - ⑨廃棄物のリサイクル

上記9項目に該当する場合は確実に配慮する。

その後、6回目の更新審査(2015年版への移行審査を含む)を経て、18年間の運用を続けています。

● 環境保全効果

今年度の環境保全効果は、下表のようになりました（削減量は前年比）。

今後も、廃棄物の削減、リサイクル率の向上に努め、環境負荷の低減に向けた取り組みを継続していきます。

効果の内容	指標の分類	単位	削減量	2017 年	2016 年	2015 年	2014 年
事業活動に投入する資源に関する効果	コピー用紙使用量	枚	▲1,500	136,500	135,000	161,500	227,500
	電気使用量	千 kwh	10	522	532	400	255
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	温室効果ガス排出量	t - co2	7	254	261	151	97
	産業廃棄物量	m3	▲111	111	0	102	207

温室効果ガス排出量算出は、環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」による
※2015～2016年度の本社移転に伴い同じフロアに他部署と同居することとなったため、フロア全体の電気使用量を用いたことにより前年比増となった。

● 2017年度 環境目的・目標達成状況

当社の環境マネジメントシステムは、環境への有害性評価を行いその低減を図るだけでなく、環境への間接的な有益性を評価するのが特徴です。環境に有益な工法を研究・開発、設計・検討することを通して、環境への負荷を低減する取り組みを行っています。

管理項目	環境目標	検証方法	達成状況
事務業務	コピー用紙削減・節電・エコキャップ運動を継続。既に定着しているため特に数値目標は設定しない。	資源廃棄物管理表、エコキャップ運動推進表により検証。	【コピー用紙使用料】 H28年度135千枚 H29年度136.5千枚 前年比0.1%up
研究・開発業務	各研究・開発テーマの計画書に基づいて実施する。業務に際しては、著しい環境側面(有害性)に配慮して、周辺環境への影響を最小限に留めるものとする。	研究開発進捗管理表により検証。埼玉試験所の状況を現地確認。	環境に大きな影響を与えるような現象は発生していない。
設計・検討業務	環境・防災・都市再生・維持管理等の専門技術を活かし、環境側面に配慮した設計・検討を行う。	専用の技術営業管理システムのデータにより検証。	設計・検討した案件は確実に配慮している。

社会貢献 -1

〇●〇

日特建設は、社会から信頼される企業を目指し、様々な社会貢献活動を推進しています。その中から主なものをご紹介します。

● 災害復旧・救援活動

当社とその社員は、災害復旧・救援活動に協力しています。



■東京支店 人名救助にて感謝状（東京都 2017年8月）
東京駅構内で発生した救急事象に対して、迅速かつ的確な応急手当を実施したとのことで東京消防庁より、当社の社員が表彰を受けました。当社員は東京駅のコンコースで倒れている女性を見つけ、すぐさま心肺蘇生法（CPR）の流れに沿って傷病者の観察を行い、手当を致しました。当社員は以前より災害時支援ボランティアとして活動をしており、応急手当普及員及びコーディネーターの資格も取得し、中学校や高校に行き消防署員の方々と応急手当の講習を行っていたことで技術を身につけたことが今回の救助活動に役立ちました。



■九州支店 台風18号に伴う林道復旧作業に従事（鹿児島県 2017年10月）
2017年9月17日に鹿児島県薩摩半島に上陸した台風18号は、九州から四国等の各地で被害を発生させました。鹿児島県垂水市で工事を担当していた当社は、近隣の林道で、台風による倒木により道路がふさがれてしまう被害が発生していました。そこで道路復旧への協力依頼を行政機関より受け、協力しました。外部からのクレーン搬入ができなかったため、現場で使用していたクロールクレーンを提供し、復旧作業に協力いたしました。

● 現場見学会

地域市民の方々に当社担当の工事等を理解していただくために、現場見学会等を各地で開催しています。



■東京支店 国指定史跡の保全事業についての地域住民の方々への現場説明会（埼玉県 2017年10月）
さいたま市で、見沼通船堀（1731年に開通した閘門式運河）を保全する事業において、地域住民の方々を対象に「国指定史跡見沼通船堀」の歴史と「整備事業」の内容に関する説明会が、さいたま市教育委員会の主催で開催されました。当社はこの工事で法面保護の施工を担当しました。説明会では法面全体の緑化するために施工したジオファイバー工法の説明を行いました。



■広島支店 中国自動車道 道路工事の現場見学会（広島県 2017年8月）
広島工業大学より当社にご要望をいただき、中国自動車道にて現場見学会を実施しました。当日は准教授2名と学生23名の方々にご参加いただきました。始めに現場事務所にて工事概要を説明し、その後、現場で見学を行いました。見学では主に、道路わき法面に施工していた盛土補強土の説明を行いました。施工中で、交通規制をかけていたため、発注者様に許可をいただき、本線を歩いてもらいました。普段は降りることができない道路本線で見学いただいたということもあり、参加者の学生の方々には熱心にメモをとって見学いただきました。

● 地域貢献

当社では、現場周辺の住民の方々や地域への貢献活動も積極的に推進しています。



■東北支店 第11回富沢市民センターまつり
駐車場誘導活動（宮城県 2017年10月）
支店の事務所に隣接する富沢市民センターで毎年行われている、富沢市民センターまつりに本年も協力させていただきました。センターまつりの来場者の方々に、支店事務所の駐車場（20台分）を提供し、活用していただきました。
当日は駐車場で、当社の社員が自動車の誘導や案内を行いました。このように定期的に協力していくことで、地元地域に貢献していきます。



■東京支店 川原湯温泉 湯かけ祭りの会場設営に協力（群馬県 2018年1月）
2018年1月、群馬県長野原町において、川原湯温泉 湯かけ祭りが行われました。ハッ場ダムで工事を行っていた当社は、普段工事にご理解をいただいている皆様に対し感謝の気持ちで、湯かけ祭りの会場設営に協力させていただきました。その後、祭りにも参加させていただき、地元の方々と楽しい時間を過ごすことができました。また開催に際して、運営費用の一部になればとの気持ちから、ささやかながら寄付をさせていただきました。



■北陸支店 ECHIGO 棚田サポーター（新潟県 2017年5月～11月）
ECHIGO 棚田サポーターとは、棚田を愛し、地域の方々と一緒に棚田を守るため、新潟県にある県農地部職員を中心に結成されたグループです。その目的に賛同した北陸支店の有志は、今年も新潟県各地の棚田の草刈り、清掃に協力しました。2017年度は、5月から11月にかけて計13回、延べ25名が参加しました。
【主な活動内容】
①村上市、松沢地区 ため池周辺整備ほか・・・3回
②十日町市 草刈り・・・3回
③胎内市、柏崎市、佐渡市 他 草刈り・・・7回



■大阪支店 公園遊具の塗替え（高知県 2018年3月）
高知県安芸郡東洋町甲浦で、船倉橋の橋梁補修の工事を担当しました。施工中、日頃の近隣の方々の工事へのご理解、ご協力に対する感謝として、現場町内（東洋町甲浦）の児童公園整備を申し出ました。公園の主な整備内容は、ブランコ、滑り台、鉄棒などの遊具と周辺柵のペンキの塗替え塗装です。また古くなり錆が目立っていたブランコのチェーンについては、交換を行いました。きれいになった遊具で楽しそうに遊ぶ子供たちを見て、工事へのご理解へのささやかなお礼になったのであれば幸いです。

● 地域貢献

当社では、現場周辺の住民の方々や地域への貢献活動についても積極的に実施しています。



■大阪支店 AED の設置と地域への開放

(香川県 2017 年 4 月～2018 年 4 月)

工事に従事する現場関係者の緊急罹患時に備え、現場事務所に AED を配置しました。そして現場関係者だけでなく、事務所周辺の地域の皆様にも利用していただけるように、広く開放しました。その周知をするため、AED 配置事務所であることを認識出来るように、道路近くに看板を設置しました。また設置を前に、社員 3 名で AED の利用講習を受けました。現場の社員全員が利用方法をマスターし、いざとなったときに利用できる状態にしておきました。



■広島支店 山口県防災・砂防ボランティア協会に

おける砂防施設点検活動(山口県 2017 年 11 月)

土砂災害を未然に防ぐことを目的として、毎年行われている防災・砂防ボランティア協会による砂防施設点検活動に今年も参加しました。点検活動は、山口県土木建築部砂防課と協力し、県内の土砂災害危険箇所である急傾斜地や地すべり防止区域、そして砂防施設などで実施しました。

今回も県土木部、協会関係者の方などと山口県内の砂防ダムを 3～4 名のグループに分かれて、5～6 箇所を点検しました。点検は、前回の点検箇所に著しい変状が起こっていないかなどを確認していきました。



■九州支店 地域の草刈りおよびトイレの開放

(熊本県 2017 年 4 月～9 月)

平成 28 年の熊本地震で地元の運動施設・公園が被災しました。当社は現場事務所をこの運動施設のテニスコートに設置させていただいたこともあり、テニスコートと周辺の除草作業を地域の方々と一緒に行いました。

また、地震により公園内のトイレが使用不能になっていましたので、現場事務所のトイレを開放しました。トイレは国土交通省も薦める快適トイレを使用し、近隣の方々にも快適に利用していただけるように、清掃にも気を配りました。

● 清掃活動等

現場周辺や支店周辺の清掃活動を積極的に行っています。



■東北支店 桂浜海水浴場清掃活動(秋田県 2017 年 6 月)

秋田県ジオファイバー協会の会員企業の皆様とともに、秋田市にある桂浜海水浴場の清掃活動を行いました。海水浴シーズン前に海水浴場にいたる道路周辺の清掃をしました。

清掃時は、かなり草が茂っており、背が高くなった雑草を草刈機で刈り取りました。また刈り取り後には、ペットボトルや空き缶などを拾い集めました。今回の清掃活動は、支店長を始め、支店部長や本社の副本部長が参加し、当社から 8 名、総勢 23 名で行いました。この活動には、平成 19 年から参加しています。



■東北支店 道路清掃活動(青森県 2017 年 10 月)

青森県のジオファイバー協会の会員企業の皆様と一緒に、県道 27 号線(青森浪岡間)朝日山～王余魚間の約 7km の清掃活動を行いました。当日は、青森県のジオファイバー協会の会員企業の皆様と、当社の青森営業所の 20 名が参加して、道路沿いのゴミを拾いました。7km の道のりの清掃活動でしたので、写真のように多くのゴミを集めることができました。最後に、集めたゴミでいっぱいになった袋を前に記念撮影です。地元のクリーンアップに少しでも貢献できたのではないかと思います。



■大阪支店 高松自動車道他の清掃活動

(香川県 2017 年 6 月～2018 年 4 月)

現場周辺の清掃活動を行いました。作業箇所は、工事場所である高松自動車道と足場の設置してある国道 11 号線です。作業箇所に近接した路面以外は、通常は清掃しにくい場所であり、工事の始める前の朝、清掃して環境美化に努めました。ゴミは、空き缶、ペットボトル、落ち葉などが多く集まりました。作業は、社員と作業員で協力して行い、工事期間中定期的に行い、夏場の暑い時期なども皆で汗をかきながら行いました。



■広島支店 第 31 回 児島湖流域清掃大作戦

(岡山県 2017 年 11 月)

岡山県の児島湖とその流域の環境保全を図る目的で毎年 9 月から 11 月までの期間に「児島湖流域環境保全推進月間」として色々な催しが行われています。その中で 11 月 5 日の日曜日に、県内 8 箇所ですべて 4,000 人ほどの参加者が集まり、周辺地域の清掃を実施しました。当社からも社員とその家族 3 人が参加し、岡山県建設業協会会員企業 10 社 約 200 名と近隣の住民の方々と一緒になり、西川緑道公園の水路周辺を清掃活動を行いました。

● 学生の企業訪問・次世代育成

当社では、インターンシップ、企業訪問の学生受け入れや、説明会を随時を行っています。



■高校生の体験学習(東京都 2017 年 12 月)

高校生の体験学習として行われている企業訪問について、鹿児島中央高等学校の生徒 7 名の受け入れを今年も行いました。始めに会議室に集まった生徒に対して、当社についての説明を行いました。技術本部の社員から、当社の技術に関する説明や模型や水槽を使い、液状化の仕組みなどを説明しました。その後は、生徒の地元である鹿児島県の北薩トンネルについての説明を行いました。生徒からは積極的に質問があり、活気のある企業訪問・説明会となりました。当社では、今後も続けて、学生の皆様の体験学習である企業訪問を、定期的に受け入れていきます。